

第64回 医学教育セミナーとワークショップ in 昭和大学

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第64回医学教育セミナーとワークショップは、昭和大学と共同開催いたします。奮ってご参加ください。

昭和大学 医学教育推進室 高木 康
岐阜大学 医学教育開発研究センター 藤崎和彦

2017年4月22日(土)～23日(日) 昭和大学(旗の台キャンパス)

2017
春

- セミナー 超高齢社会を見据えた未来医療予想図 TL
～地域包括ケアの中の多職種協働～
- WS-1 臨床実習前IPL(多職種交流授業)を企画する CD
- WS-2 チーム医療臨床実習(病院・地域)をデザインしてみよう CD
- WS-3 医学生と研修医のためのセルフケア教育をデザインする! ML
- WS-4 分野別認証 自己点検評価書の考え方・書き方 A
- WS-5 患者をその気にさせる「動機づけ面接」って何? TL
- WS-6 プロフェッショナリズム教育の2つの義務から方略を考えよう TL
～向上的的目標とアンプロフェッショナルの回避～
- WS-7 明日からできる、アクティブ・ラーニング TL
～さまざまなアクティブ・ラーニング・モデルを共有する～
- WS-8 教学IR実践ブラッシュアップ ～より洗練された医学教育IRに向けて～ R
- WS-9 研修医のキャリアプランニング ～自分らしいキャリア選択を考える～ ML

* 記号(TL 等)は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。
詳細は、MEDCホームページ「[アソシエイト・フェローシップのご案内](#)」をご覧ください。

プログラム								
22日 (土)	午後	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4	WS-5	WS-6	WS-7
	夕方	セミナー						
	夜	懇親会						
23日 (日)	午前	WS-1	WS-2	WS-3	WS-8	WS-5	WS-6	WS-9

セミナー 超高齢社会を見据えた未来医療予想図 ～地域包括ケアの中の多職種協働～

TL

講師： 飯島勝矢（東京大学 高齢社会総合研究機構）

日時： 4月22日（土）17:15～18:30

概要： 高齢期であってもいかに生活の質を保ち、よく生き切って人生を閉じることができるかという時代の要請に応える医療が今まさに求められている。そこには「病人である前に『生活者』である」という理念の下に、住み慣れた街全体で生から死までを地域全体で支え、みて（診て・看て）いくという地域完結型の医療への進化、そして機能分化型のシステム型医療へのパラダイム転換が必要である。すなわち従来の「治す医療」から「治し支える医療」という原点に立ち返らなければならない。今我が国で進められている地域包括ケアシステム構築において、制度としてではなく、「医の原点」としての志と活動内容を再考する。また、まさに国家プロジェクトになった「フレイル予防」も視野に入れた一連の老いの姿をイメージし、こだわりを持った早目からの多職種協働が求められている。

WS-1 臨床実習前IPL（多職種交流授業）を企画する

CD

企画： 片岡竜太・倉田知光（昭和大学）、小原真知子・鶴岡浩樹（日本社会事業大学）、松井由美子（新潟医療福祉大学）、越野 寿（北海道医療大学）、窪木拓男（岡山大学）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00、23日（日）9:00～13:00

概要： 超高齢社会において、安心安全な医療を実践し、地域において国民の生活を支えQOLを高めていくためには、保健、医療、介護、福祉関連の職種との多職種連携を進めていく必要があります。多職種連携の必要性を反映した卒前・卒後教育カリキュラムを構築し、社会のニーズに応える医療人を養成するために、まず、複数の大学、学部が連携して、IPLの場を作り、IPLのカリキュラムを作成する必要があります。IPEは協働とケアの質を改善するために専門職がともに学ぶ事ですが、IPLは専門職IPEを目指す学生の相互交流を意味します。本ワークショップでは、パート1で、他学部・学科と組んで臨床実習前IPLのカリキュラムと実施概要を検討します。パート2で臨床実習前IPLのアウトカムと内容を実施に向けて具体的に検討します。

対象： 医療系、保健、福祉、介護系教員でIPEに興味がある方、特に、医療系に限らず保健、介護、福祉系の方の参加を歓迎します。定員：30名

WS-2 チーム医療臨床実習（病院・地域）をデザインしてみよう

CD

企画： 木内祐二・倉田なおみ・田中佐知子・佐口健一・小林 文・弘中祥司・鈴木久義（昭和大学）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00、23日（日）9:00～13:00

概要： 多職種連携実習などによりチーム医療の実践能力を育てることが医療系の大学教育に望まれている。しかし、特に複数の医療系学部を持たない大学では、病院や地域での多職種連携臨床実習のカリキュラムを作成し、円滑に実践することに困難を感じていると思われる。そこで、本ワークショップでは、複数大学（複数学部）が連携して、病院や地域で多職種連携臨床実習を実践するための支援として、高学年での実習のカリキュラムを構築し、円滑に実践するためのシミュレーションを行う。1日目は、多職種連携臨床実習のカリキュラムを検討し、そのアウトカム、学習目標・方略の具体例を作成する。病院実習と地域医療実習（在宅医療など）のグループに分かれて討議する。2日目は、1日目に検討した病院や地域での多職種連携医療実習を複数大学（複数学部）が協力して実施する場合、カリキュラム作成や実施までのプロセスをどのように進めたらよいかを具体的に検討する。

対象： 複数大学（複数学部）による多職種連携医療実習の構築に興味がある方
医師、歯科医師、薬剤師、看護師、作業療法士、理学療法士など、各職種の教育に関わる関係者を歓迎します。 定員：20名

WS-3 医学生と研修医のためのセルフケア教育をデザインする！

ML

企画： 高宮有介・土屋静馬・杉原 桂（昭和大学）、高屋敷明由美（筑波大学）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00、23日（日）9:00～13:00

概要： わが国では、厳しい医学教育のなかで精神的な課題を抱え、留年や退学、場合により自死に至る学生がいたり、研修医も、うつ病などの精神疾患を有したり、バーンアウトしたりする者もいます。海外では、医療者は、医療者自身のケア、ストレスマネジメントに習熟することが重要視され、医学生自身が、自分を見つめ、自分のストレスに気づき、対処法を学ぶ授業を必修化している大学もあります。また、セルフケアは、医学教育の分野別認証（国際認証）に対応するカリキュラムとして行動科学に含まれる重要なテーマでもあります。今後、わが国でセルフケア教育を医学生、研修医向けに実施していくには、どのようなカリキュラムが必要でしょうか。昭和大学等の取り組みを紹介しながら、セルフケア教育のカリキュラムを作成していきたいと考えています。

対象： セルフケア教育に関心のある方、セルフケア教育を実践している方、これからセルフケア教育の導入を検討している方 定員：20名

WS-4 分野別認証 自己点検評価書の考え方・書き方

A

企画： 高木 康（昭和大学）、福島 統（東京慈恵会医科大学）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00

概要： 日本医学教育評価機構（JACME）による分野別認証が始まり、すでに10数校が受審している。この際に重要なのが自己点検評価書である。この自己点検評価書は医学部・医科大学のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーと密接に関連して、自己評価して記載する必要がある。そして、この自己点検評価書に基づき、自校の現状を把握して、改善案を考察し、将来像を展望する。今回のワークショップでは自己点検評価書の意義について、全体像を把握した後、各グループに分かれてすでに提出され、公開されている自己点検評価書を基に、9領域のなかから特に重要と考える数領域を選抜して、考え方・書き方をグループワークする。

対象： 医学部分野別認証を希望している医学部・医科大学の自己点検評価書を記載する教員あるいは事務担当者 定員：20名

WS-5 患者をその気にさせる「動機づけ面接」って何？

TL

企画： 伊藤孝訓（日本大学松戸歯学部）、足達淑子（東京医科歯科大学）、木尾哲朗（九州歯科大学）、鈴木一吉（愛知学院大学）、吉田登志子（岡山大学）、藤崎和彦（MEDC）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00、23日（日）9:00～13:00

概要： 近年の歯科医療は、高齢化の進展と少子化による人口構造の変化、う蝕の減少等の疾病構造の変化、患者意識の変化、治療の多様性に伴い患者－医療者関係がより複雑になってきています。しかし、そのような環境下においても、歯科医療者は国民のニーズに応え、プロフェッションとしての対応が求められています。歯科疾患は命に関わるリスクが低い生活習慣病であるために自己管理が難しい課題です。口腔の健康を維持するには、歯ブラシによる刷牙が重要なことを知らない人はいませんが、日常生活ではまだまだできていないのが現状です。う蝕、歯周病の馴れの姿をいっても刷牙行動がなかなか変容してくれません。このようなときに、患者の心を揺り動かす働きかけとは何でしょう。行動の変化に繋がるような対話ができれば、よりよい患者－医療者関係の確立にも繋がります。今回、「動機づけ面接MI :Motivational Interviewing」という、行動変容を促す糸口に当たる変化動機を引き出し強化する対話法について、一緒に学びたいと思います。

対象： 歯科の臨床教育に関心のある方。特に歯科衛生士を歓迎します。

定員：30名

WS-6 プロフェッショナリズム教育の2つの義務から方略を考えよう ～向上的目標とアンプロフェッショナルの回避～

TL

企画： 日本医学教育学会 プロフェッショナリズム・行動科学委員会（宮田靖志、野村英樹、朝比奈真由美、井上千鹿子）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00、23日（日）9:00～13:00

概要： プロフェッショナリズム教育では、医師としての最低限の達成目標と常に高みを目指し続けるという向上的目標の2つを考慮しなければならない。ワークショップの1日目は前者、特に、学生・研修医・医師の非行misconductに焦点を当てる。従来の医学教育現場においてはこれらに対して場当たりの対応しか行われず、教育内容や教育環境の見直しが行われることは稀であったことは否めない。その一つの要因は、我々自身がどう対処すれば良いかわからないことにあるのではないだろうか。そこで、人が非行に至るメカニズムに関する知見を共有し、その知見に基づいて問題行動への対処について検討する。2日目は後者の目標に焦点を当てる。共感を中心とするヒューマニズム、また、ジレンマや曖昧さに対処するプロセスはプロフェッショナリズムを高める原動力になる。これらを涵養するため参加者が用いている方略を共有する。ジレンマ、曖昧さへの対処のケースディスカッションに使うシナリオ作成を行う。

対象： 卒前・卒後・生涯教育においてプロフェッショナリズム教育に関心のある方すべて

定員：30名

WS-7 明日からできる、アクティブ・ラーニング ～さまざまなアクティブ・ラーニング・モデルを共有する～

TL

企画： 日本医学教育学会 卒前教育委員会（泉 美貴、神代龍吉、青木昭子、阿部幸恵、伊藤俊之、小田康友、小林直人、鯉淵典之、辻 美隆、中島 昭、中村真理子、長谷川仁志、廣井直樹、三木洋一郎）

日時： 4月22日（土）13:00～17:00

概要： 本ワークショップでは、参加者がアクティブ・ラーニングのイロハに始まる入門者編～上級者編までの内容を、その場で理解し、「明日からできる」よう企画しました。昨今の医学教育ではアクティブ・ラーニングの必要性は論を俟ちませんが、何から第一歩踏み出すべきかわからない教育者は少なくないと思います。更には、TBLを始めとした流行のアクティブ・ラーニングを取り入れたいもののノウハウが分からないという教育者や、すでに取り入れているものより多彩にする方策に悩んでおられる教育者などにとっても有用です。ワークショップでは、「明日からでも活用できるアクティブ・ラーニング」の入門編～上級者編まで様々なレベルのモデルを紹介するので、各大学にお帰りになった後、明日からでも始めていただけます。もちろん、アクティブ・ラーニングの理論やコツについても触れます。このワークショップがアクティブ・ラーニングの普及の一助となることを期待しています。

対象： 授業でアクティブ・ラーニングを取り入れたい、盛んにしたいと願っておられるすべての教育者

定員：30名

WS-8 教学IR実践ブラッシュアップ ～より洗練された医学教育IRに向けて～

R

企画： 恒川幸司（MEDC）、荒井貞夫（東京医科大学）、中村真理子（東京慈恵会医科大学）、岡田聡志（千葉大学）

日時： 4月23日（日）9:00～13:00

概要： 分野別認証評価の受審を契機として、各大学ではIR（Institutional Research）部門が設立されてきており、データを基にした教育改善が行われる機運が高まっている。しかしながら、教学IR部門は情報管理や倫理的課題を有する性質上、『IR組織の立ち上げ～リサーチクエストの計画立案～データの入手～入手したデータの解析』という全容が公になることは少ない。そのために、各段階での方略が本当に適切かどうかを外部の方々や検証する機会がほとんどない。そこで、医学教育IR部門の立ち上げやIRの実践に関与している方が集まって、それぞれの取り組みをピアレビューによりブラッシュアップすることで、各大学の医学教育IR部門の業務改善を図るとともに、有用な情報の共有をおこないたい。

対象： IRを担当している、またはIRに興味のある教職員

定員：30名

WS-9 研修医のキャリアプランニング ～自分らしいキャリア選択を考える～

ML

企画： 賀来 敦（岡山家庭医療センター）、里見なつき（東海大学）、蓮沼直子（秋田大学）

日時： 4月23日（日）9:00～13:00

概要： キャリアの成功・満足度には、アイデンティティ（自己概念）・キャリアアダプタビリティ（適応能力）・ソーシャルキャピタル（人的ネットワーク）の3要素が関連している。自らのキャリアを自身でデザインする『技術』を習得させるためには、この3要素の能力を向上させるキャリア教育を研修医・医学生に提供する必要がある。企画者は、研修医・医学生向けキャリア形成プログラム開発の一環として、「キャリアプランニングプロセスの7つのStep（意思決定の必要性の自覚、自己の再評価、職業の特定、情報収集、仮決定、教育・訓練、就職・異動）」に沿ったコンテンツ開発を行なっている。今回、アイデンティティの確立をサポートする、キャリアカウンセリングワークを中心に提供する。ワークによって「自分らしいキャリア選択」が可能になり、また「自己効力感」の向上・「当事者意識の醸成」を促進する。

対象： 研修医・医学生、医学教育・キャリア支援にかかわる者

定員：30名

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2017年 4月 9日（日）

ホームページからお申し込みできない方は、TEL:058-230-6470 までご連絡ください。
ワークショップの運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円 学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
参加費は、当日資料ならびに第64回セミナーとワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生への送付はありません。）

会場： 昭和大学（旗の台キャンパス）

（〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8）

旗の台駅（東急池上線・大井町線）東口徒歩5分



交通アクセス

東京駅～旗の台駅：28分（五反田経由）

新宿駅～旗の台駅：28分（五反田経由）

品川駅～旗の台駅：19分（五反田経由）

横浜駅～旗の台駅：約36分（大井町経由）

川崎駅～旗の台駅：約21分（大井町経由）

